

平成 20 年度 全国共同利用研究成果発表会

日時：2009 年 1 月 27 日（火） 9 時 30 分 ～ 17 時

場所：東京大学（本郷キャンパス） 小柴ホール

高知大学海洋コア総合研究センターにて行われた全国共同利用研究の成果発表会を開催いたします。

皆様のご聴講を歓迎いたします

（* 全国共同利用研究は、独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の協力を得て実施されています。）

プログラム

9:30- 9:50 開会挨拶（渡邊巖）

全国共同利用委員会委員長挨拶（徳山英一）

9:50-10:50

- (1) 「ベーリング海における最終氷期以降の浮遊性有孔虫酸素同位体比変遷と有孔虫季節生産パターンの変遷」
朝日博史(東京大)、岡崎裕典(JAMSTEC)、池原実(高知大)、高橋孝三(九州大)
- (2) 「苫小牧沖海底コアの解析に基づく最終氷期以降の環境変動」
大串健一(神戸大)、池原実(高知大)、内田昌男(国立環境研)、阿波根直一(北海道大)、木元克典(JAMSTEC)
- (3) 「Late Glacial environmental change at Lake Suigetsu, central Japan: preliminary evidence from bulk organic and compound specific isotope geochemistry」
Tyler, Jonathan; Yokoyama, Yusuke; Kashiya, Yuichiro; Ogawa, Nana; Ohkouchi, Naohiko (Tokyo U.); Ikehara, Minoru (Kochi U.); Nakagawa, Takeshi
- (4) 「マニラ湾表層堆積物の堆積構造・有機地球化学特性からみた海底環境」
天野敦子(愛媛大)

11:05-12:20

- (5) 「南房総上部鮮新統における高精度複合層序」
岡田誠、松田瞳、内田剛行、荒川裕司(茨城大)
- (6) 「北海道蝦夷層群における数万年規模の炭素同位体比変動の検証」
富永嘉人(金沢大)
- (7) 「東南極・リュツォ・ホルム湾の海底地形地質調査と東南極氷床変動研究の課題」
三浦英樹(極地研)、池原実(高知大)
- (8) 「南極ウィルクスランド沖コアに見る岩石磁気特性変化と珪藻化石変化の関連」
中井睦美(大東文化大)、上野直子(東洋大)、森尻理恵(産総研)
- (9) 「西オーストラリア・太古代 DXCL 掘削の現状」
伊藤孝(茨城大)、清川昌一(九州大)、山口耕生(JAMSTEC)、北島富美雄(九州大)、
菅沼悠介(東京大)

-----昼休み-----

13:20-14:50

- (10) 「ヒマラヤンテチス、中央ネパール Jomsom 地域における三畳系の微量元素と安定炭素同位体比変動」
吉田孝起(信州大)
- (11) 「On the pyrrhotite-based stable secondary magnetic remanence and magnetic fabric recorded by Tethys Himalaya sediments (Jomsom area, Nepal)」
Gautam, Pitambar(北海道大)
- (12) 「グリーンランド南西部で採取した始生代岩石の古地磁気強度」
関華絵(神戸大)
- (13) 「オルドバイ末期における多数の地磁気小反転」
兵頭政幸(神戸大)

- (14) 「北大西洋海底掘削コア試料の古地磁気・岩石磁気研究—U-channel 試料の帯磁率測定—」
大野正夫、林辰弥(九州大)
- (15) 「IODP Expedition 315, 316 航海で採取された黒色断層物質の熱履歴解析および化学分析」
廣野哲朗(大阪大)

15:05-16:35

- (16) 「MC-ICPMS によるユウロピウム安定同位体分析法の確立と自然界における同位体比変動の
発見」
田中浩史(名古屋大)
- (17) 「Sr 同位体比から見積もった鳥巢式石灰岩の年代とその古海洋学的背景」
柿崎喜宏(広島大)
- (18) 「小川原湖より採取されたコアの解析 (予報)」
成田尚史(東海大)
- (19) 「IODP Expedition 310 タヒチサンゴ化石から推定される南太平洋亜熱帯域における最終氷
期以降の海洋環境」
浅海竜司(東北大)
- (20) 「南太平洋 Lau 海盆の海底熱水性堆積物の堆積年代決定」
柿木秀雄(東京大)
- (21) 「海底堆積物を用いた放射性同位体 Be 分布の解明」
永井尚生(日本大)

16:35-16:45 閉会挨拶 (小玉一人)